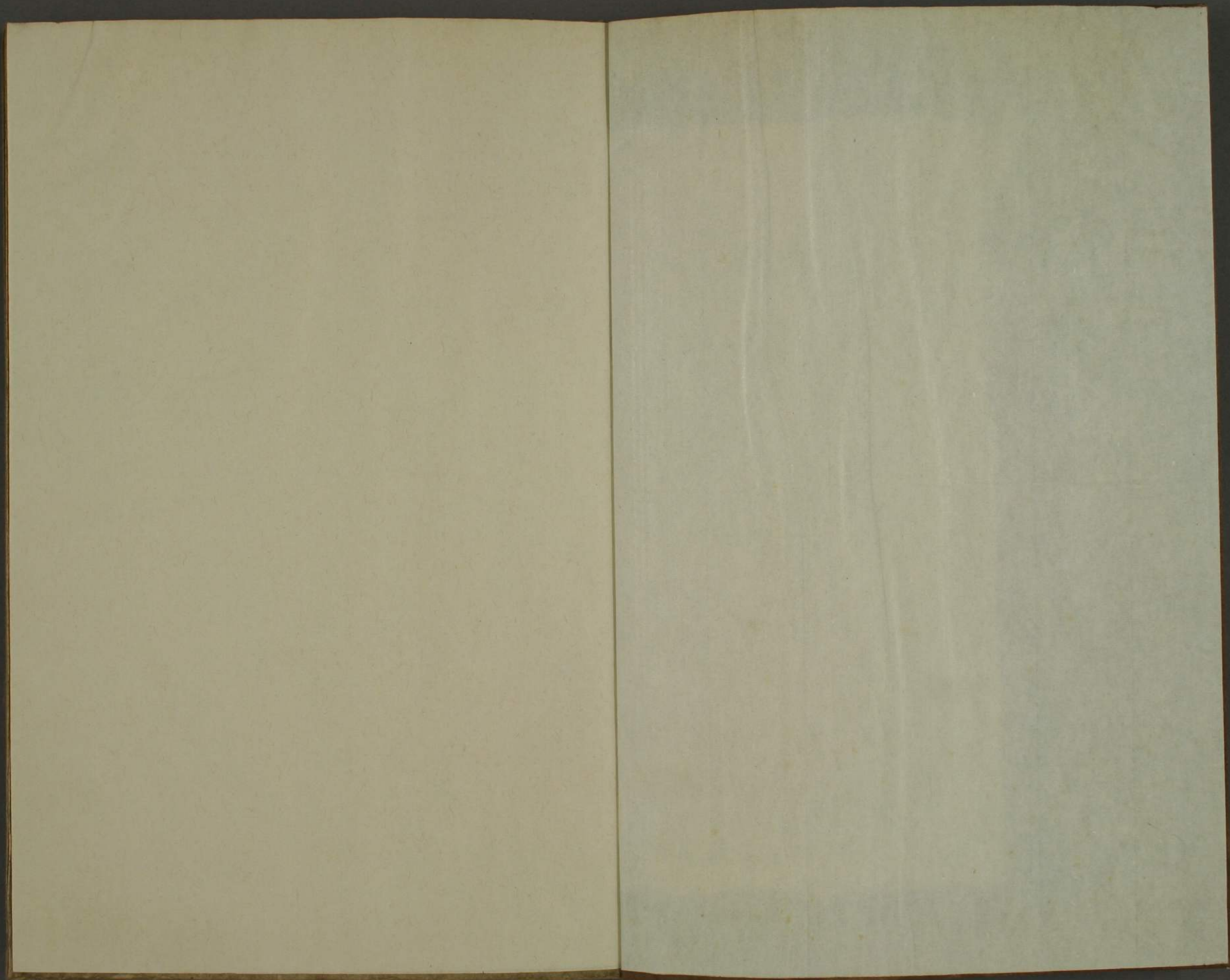


昆陽漫錄蘭說辨正

大槻玄澤自筆序
山村昌永筆授

重文
洋学文庫
文庫 8
A 40





卅
闌
說
辨
正

大觀文庫

昆陽漫錄蘭說辨正自序



余茂曾從事于和蘭之學也久矣。初受
教于蘭化先生。若某化先生嘗學于昆陽
先生。昆陽先生者。世之鴻儒也。其學主利
用厚生。為民之裨益。弗少矣。近時如
諸列所滋生之蕃。蕃者。乃民之所天。其
善濟之績大。可不謂仁乎。其所著述
經濟纂要。草廬雜談。昆陽漫錄。

等之諸書。盡是實用切近之抄錄。其所考定。皆為緊要。

德廟之時。擢舉于朝。辱奉

嚴命。往于崎港。傍為和蘭之學。質諸譯司。其所躬受。有和蘭譯語。和蘭文字畧考。等之書。後授之蘭化先生。蘭化先生繼其緒業。夙夜鑽研。誦讀西書。我輩受日月之末光。辱奉

其餘教。習慣修為。至于今日。可不謂幸乎。二師草創之勲。豈不亦偉而大乎。余頃日閱以陽漫錄。事之的切。條之著明。為世用之益。弗數矣。人之誦讀之。廣見聞。為功用者。亦復不為不多。且其所傳錄。和蘭之事。故不常。十。百。今我輩左禮結盟。得熟讀西書。然先哲前賢之所傳聞。未必無糾繆。

車錯百哉當時肇基其業多記
狄鞮之所傳余是以抄錄其諸說
嘗所審詳之者乃訂正附記之其所
未詳悉者原諸蘭書補綴譯之為
先師繼其志弘其業以傳同志門
人山昌永能習熟其業命之筆
授重訂定稿題曰蘭說辨正是所
以酬先師博濟之素志供國家

萬一之用且頌今日之盛舉展熾
介之愚衷也

寬政七年乙卯秋九月後學子玄澤
大槻茂實識于澗菴書屋



目錄

阿蘭陀文字

羅紗

阿蘭陀兩城圖

阿蘭陀葉

瑠璃

阿蘭陀墨

黑船

阿蘭陀銀

散藥

七音

和蘭無年號

石罌

大山

ホウラツカ

阿蘭陀尺

西洋印書

龍骨

金錢

含生草

一角

阿蘭陀尺圖

以上二十四條

五

倭扇

蠻酒

ソニ子左イスル阿蘭陀日
時斗

阿蘭陀文字
目錄

十音

阿蘭陀文字

法苑珠林ニ云ク昔造書之主凡有三人長名曰梵其書
 右行次曰佉盧其書左行少者倉頡其書下行ト阿蘭陀
 字右行ニテ二十五字其体篆真行草ノ如キアリテ横
 ニ續テ用ユ續様ハ阿蘭陀文
字畧考ニノス今二十五字并ニ數字ヲ
 記スサテ書史會要ニ云ク帝師巴思八作蒙古字一字
 具平上去三声輕呼俱則同平声ト巴思ハ僧ナレハ
 凡字ニ效フテ作ルナルベシ大清紀事ニ太祖ノ天命

五年ニ造滿字太宗ノ天聰六年大海始用滿字譯歷代
 史書頒行國中人盡通曉服用ストアレバ滿字ハ明ノ
 萬曆年中ニ作ルナリ阿蘭陀文字二十五字左ノ如シ
 阿蘭陀コレヲあべせでト云我國ニテコレヲ阿蘭陀
 イロハト云ナリ

セエタツト

Z

Handwritten cursive Z 乙.

エイ

Y

Handwritten cursive Y

エキサ

X

Handwritten cursive X

トツルトイハ

W

Handwritten cursive W

イハ

V

Handwritten cursive V

ハ

P

P. p.

キ
ウ
ワ

Q

Q. q.

ア
ラ

R

R. r.

エ
ツ
サ

S

S. s.

テ

T

T. t.

ユ

U

U. u.

イ

I

J. i.

カ

K

K. K.

エ
ラ

L

L. l.

エ
シ
マ

M

M. m.

エ
シ
ナ

N

N. n.

ヲ

O

O. o.

セ テ エ
C D E

Cc. Dd. Ee.

ヱ ゲ ハ
F G H

Ff. Gg. Hh.

七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
7	8	9	10	11	12	13	14
セー ヘン	ア クト	チ ン	チ ン	エ ル フ	ト ワ ル フ	チ ル チ ン	ヒ ル チ ン

千一
2002

エ
子
エ
エ
ー
ン
ド
イ
セ
ン
ド

ア
ベ
セ
テ
ヨ
リ
讀
ハ
ジ
ム

ア	ベ
A	B.
A, a,	B, b.

謹テ按スルニ右ノ阿蘭陀二十五字ハ昆陽先生崎
 陽ノ譯官ヨリツタヘ漫録スルモノナルベシ其詳
 ナルハ和蘭文字畧考ニ載ルト云フ我輩其餘教
 シ奉レ其学ヲ講習スルヲ數年其間ケ得タル所ヨ
 リコレヲミレバ未ダ其詳審ヲ盡サバハ多シ近
 時前野蘭化其志ヲ以テ所著和蘭譯笈和蘭譯文
 畧考ノ書ニコレヲ訂正補譯シテツクセリ予亦其
 大畧ヲ述テ蘭学階梯ト名ケ家塾ニ刻メ同志ノ蒙
 生ニ示スモノアリコレ等ノ書ニ就テ玩索メ其要
 ヲ知リ得ベシ先生ノ時ニ在テハコノ業ノ草創イ
 マダ全カラザルモ少ナカラズ因テ固陋ヲ顧リ

一	二	三	四	五	六
工	2	3	4	5	6
テ	テ	テ	テ	テ	テ
ニ	テ	テ	テ	テ	テ
十五					
25					
百	千	千	千	千	千
200	2000	2522	2050		
員數文字左へ讀ベシ	ダイセント	トワルテニ ヘイフホドル エーンドイセント	ヘイフテキ エーンドイセント		

●ミズ再ビ訂正ラ加フル左ノ如シ
文字二十五字トアルハ二十六字ナリ二十五字ナ
レ氏「イ」ノ字二体アリテ二十六字ナリ体ハ数十体
アリ篆真行草等ノ如キノミナラズ尋常通用スル
所七八体ミナ「ア」ベ「ツ」ク「レ」ツ「テ」ル「コ」ニ「ス」ト「ナ」ド
云ル書中ニ載ス其餘ノ諸体蘭籍中ニ散在ス其二
十六字ノ惣名ヲ「ア」ベ「セ」レ「ツ」テ「レ」ト云フ「ア」ベ「セ」
ハ其文字ノ呼ビ出シノ三字ナリ「レ」ツ「テ」レ「レ」ハ文
字ナリ猶我國ノイ「ロ」ハ「四」十八字ト云ガ如シ「ア」ベ
セ「レ」ハ彼国ニテ称スルトアルハキ、ツ「タ」ヘ「訛」レ
時「ナ」ルベシ此ニ所載ノ三体端正ナルモノハ「ホ」ラ

「フ」ド「メ」ル「ク」レ「ツ」テ「レ」ト云体ナリ則チ首魁記號
ヲ用ユル体ナリ連綿蔓延シタルモノハ「ホ」ー「フ」ド
テ「レ」ツ「キ」レ「ツ」テ「レ」ト云フ其傍ニ小書スルモノナ
ル「レ」ツ「キ」レ「ツ」テ「レ」ト云体ナリ詳ナル「フ」ハ右
ニ云フ譯筌階梯等ニ盡シヌレバコ「ハ」ニ贅セズ且
文字ノ名ヲ国字ヲ以テ傍釈スルモノ是マタ傳写
ノ誤少ナカラズ「エ」ハ「ハ」エ「フ」ナリ「エ」ハ「エ」レ「ナ」リ
「ハ」ハ「ペ」ナリ「ア」ラ「ハ」エ「ラ」ナリ「ド」ヅ「ル」ホ「イ」ハ「ド」ブ
ル「ト」ユ「バ」ナリ「セ」エ「タ」ツ「ト」ハ「セ」ダ「ツ」トナリ尚近時
所出ノ諸書ニ於テ参考シテ其要ヲ得ベシ
数字九ツ此ニ載ルト「ナ」ロ「一」ヨリ十五ニ至リ又百

千等ノ多数ノ文字ヲ示ス其書法ハ右ノ如シ今ソ
ノ讀法ヲ其文字ノ下ニ朱書シテ以テ補フコノ數
字ハ往昔亞刺比亞國ニ於テ創製スト云フ「ボイス」
ト云ル人ノ撰書中ニ載スヒソカニ按スルニ二十
六字モ此地方ニテ作り出セルナラシカ上古亞刺
比亞既入多等文物制度等創立ノ地ト云フ數世ヲ
歴テ歐羅巴諸國世々沿革多シトイヘ凡諸藝道此
地方祖国ナリト云フ歐羅巴地方同文ナリトイヘ
凡言語文字等其モト同フメ末甚殊ニセリトミユ
大抵万国文字八九体讀法モ左右縦横等種々アリ
支那ハ直行右讀滿文ハ直行左讀ノ類ナリ西洋文

字ハ横行左讀ナリコレ兩眼ハ自ラ横ニ孔ヲ開キ
タルモノユヘ其ノ讀誦書寫ニ便ナルヲ以テノ故
ト云此類ノ諸說聞見スル所ノモノ少カラズ別ニ
隨筆ノ書ニ漫録シテ他日訂正ラナサント欲ス

七音

敦書 紅毛文字ヲ紅毛人へ尋ルニ紅毛文字ノ寄セ合

セニナ五音ナレバ西土ノ五音ハ西域ノ音ニヨル

明カナリ委クハ敦書 著ス所ノ和蘭文字略考ニテ考

ヘシルベシ

謹テ按ニ阿蘭陀五音トイヘルハ六音ナリマツ五

音ハ滿世界共ニ自然ノ音韻ナレバイツレノ地方

ニ在テモ同一般ナリ西洋ニハ「エイ」ト云音ヲ加テ

六音トナス西土我國ニテハ「アイウエラ」トヨブ西

洋ニテハ「アエイウエ」トヨブナリ「ア」ハ天地

萬方生類ウマレイテハ自然ニヨビイダス音ナリ

「ア」ノ音ヲ少シシメテ云トキハ「エ」ナリ「エ」ラシムレ
バ「イ」ナリ此意ニテ右ノ順次ニ呼音ヲナスニ次第
ニ音韻シマルヨウナリ呼テ試ムベシ諸音群言此
六韻字ヲ協和セサレハ言語音韻ヲナサズコレ亦
滿世界同一般ナリ然レ凡名物諸言ヲナスノ文字
制作シアリテ其用ヲナスユヘニコノ音韻ノ「ア」ハ
常人心ヲ注ガサル「ア」ト思ワル阿蘭陀ノ「ア」五音字
ヲヨセ合セルニハ非ズ萬國此五音ヲ離レテ諸音
諸言ヲナス「ア」ハナラヌナリ支那ノ反切梵ノ悉曇
西洋ノ「ア」ルラ「ア」ニ我國ノ「カ」ナ「ツ」カ「エ」皆五音ヲ
協和シテ音言ヲナスナリカナラズ西土ノ五音ハ

西域ノ音ニヨレルニモアルマジキカ然レ凡音學
西域ハ精密ニメ西土ノ要ヲツタヘ得メルナラ
ニ乎音學マ「ア」一大業ニテ尋常ノ人ニ於テハ得カ
タカルベシ諸國共ニ此學別ニ意ヲ用ユルノ士ニ
アラズニバ得ガタカルベシ

西暦一千七百四十二年ハ中興ノ開國ヨリナルベシ
和蘭無年號
和蘭ハ年號ナク今年ニ寛保ナレバ千七百四十二年ト
云サテ開國ヨリノ年數ニハ少クミユルユヘ和蘭人
ハ尋シニ開闢ヨリハ五千七百四十六年ト云千七百
四十二年ハ中興ノ開國ヨリナルベシ

和蘭無年號

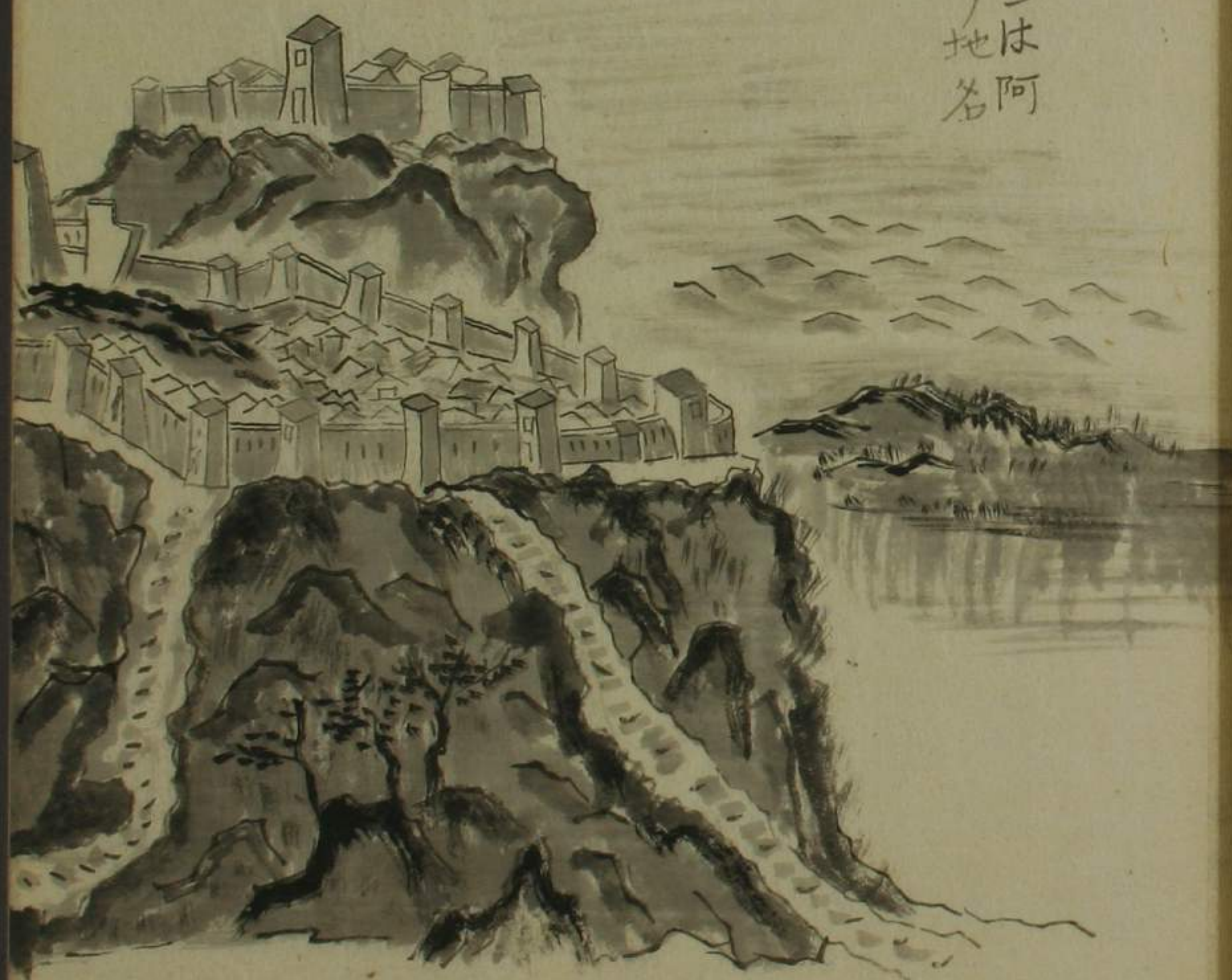
和蘭ハ年號ナク今年ニ寛保ナレバ千七百四十二年ト
云サテ開國ヨリノ年數ニハ少クミユルユヘ和蘭人
ハ尋シニ開闢ヨリハ五千七百四十六年ト云千七百
四十二年ハ中興ノ開國ヨリナルベシ

謹テ按ニ本條ニ載ルガ如ク和蘭年號ナシ今エウ

ロツパ^{和蘭等總}諸国所用其国ノ中興ニ某ト

云フ聖王アリテ新ニ政教ヲ興立ス其王ノ降誕ノ
歳ヨリ年歴ヲ推スニ即チ今年寛政七年乙卯千七
百九十四年ニアタル則其王降誕ノ歳ハ我朝垂仁
天皇三十一年西土ハ後漢ノ平帝元始二年ニアタ

メルデニ城
メルデニは阿
 蘭陀地名



メル其西洋開闢ノ始ナラ再ニ彼書ニ考フルニ我
 今年マデラ合セハカルニ五千八百三年ニ至ル今
 歐羅巴洲諸国中興ヨリノ年歴ヲ用ユト云フナリ

四十二
 八
 六
 呼
 味
 蘭
 無
 五
 煎

ニコジ五城
ニコジは阿
蘭陀の地名



ニコージエノ城ヲ北條流ノ軍者
阿蘭陀八景城ト云



石碯

羽州佐州ノ海濱ニテ拾ヒ得矢根石ニテ硝子ヲヨビ
今里茶碗彫ムレバ阿蘭陀ノデヤマンノ類トミユ今
ノ人ギヤマント云ハ誤リナリ

阿蘭陀兩城圖
西土ニコレナシ織田殿ノ時南蛮
人今ノ城制ヲ傳フト云北條流ニテハ阿蘭陀ノ八葉
城ノ制ニ倣フト云フ和蘭ノ二城ノ圖左ノ如クニコ
ジエの城ヲ我國ニテ八葉城ト云メルテニココジエ
ハ阿蘭陀ノ地名ナリ

阿蘭陀兩城圖

我國ノ城ノ制ハ西土ニコレナシ織田殿ノ時南蛮
人今ノ城制ヲ傳フト云北條流ニテハ阿蘭陀ノ八葉
城ノ制ニ倣フト云フ和蘭ノ二城ノ圖左ノ如クニコ
ジエの城ヲ我國ニテ八葉城ト云メルテニココジエ
ハ阿蘭陀ノ地名ナリ

阿蘭陀兩城ヲルズニ「ニコ」ジエ按スルニ其圖ハ
ソノ國人ニ傳フルカ或ハ彼書ニ寫シ得メル歟
蘭籍ニ就テコレヲ正スニ其地ニ名共ニ阿蘭
國中ニハコレナシ阿蘭陀ハ總州ノ名ヲ「子井」テル
ラントト稱シ都テ十七州アリ其内七州ニ分ツ者

ノ内ニ「ラランド」ト称スル處アリツノ国人我國へ
通商ヲナスナリ其七州並ニ他ノ十州ノ内ニハ都
城數多アレモ右ノ二名ハナキナリコレ阿蘭陀人
ノ傳譯スルヲ以テ其國ノ都城ナリト誤リ傳ヘラ
レタルナルベシ且其地名國字ヲ以テ記シタレバ
傳寫ノ誤モアルベキカ因テ他州ノ都城ナルベシ
ト知レズ國字ヲ以テ記シタル蛮語ナルニ甚ダ
イブカシクメ搜索ニモヨシナキナリ大抵コレニ
相似タル地名ヲ彼國輿地ノ書「コウラント・トル
ト云モノ」ニ就テコレヲ求ムルニ「スルツセルラシ
ド」内「カント・ベル」ト云地ノ都府ヲ MILDEN
ト云

云フ極テ殷富ノ都下ナリト説ケリ又 MUYDEN ト云
地「ホルランド」ノ南方ニ屬セル小邑ニシテ頗ル繁
盛ノ地アリ「アムステルダム」ヲ去ル一二里程ナリ
ト云フ又「ニコルジエ」ハ 際波里島ノ内 NICOSIA ト
称スル都府アリ又同名ノ地西齊里亞ト云地ノ縣
邑ノ名ナリ又 NICIZIA 一名 NA CHSIA ト云地アリ「アルシ
ペ」ノ屬島ナリ「メルデ」ニ「ニコルジエ」ハ或ハコレ
等ノ内ナランカ此二圖ヲ直ニ和蘭人ニ示シテ其
地名ヲ定メ而メ後彼地理ノ書ニテ考定セバ必ズ
詳審ヲ得ルナルベシ「ホイスト」云ヘル人ノ撰書中
ニ築城ノ圖説アリ桑名彦ノ珍藏ニ「ホーゴドイツ」

印刻ノ兵書ニコレイグスブツクト云モノアリ其
 内諸州ノ城圖アリ又白河侯ノ藏書ニ新刊地圖ノ
 二冊アリソノ首ニモ諸州ノ城圖アリ右両書ノ地
 名イヅレト国ニ属セルト云ル正説ヲキ、出
 ストヲ得バ必ズ精細ヲツクスベシ姑クコレヲ録
 ノ他日ヲ待ツモノナリ

阿蘭陀薬

阿蘭陀人常ニ用ル下薬のヒヨルハンムアルムデと
 云煉薬ヲ飲ニ少シ酢クシテ甚ダ緩ク下シテヨロシ
 阿蘭陀のタマシインボラムと云木實ヲ煮スリコシ
 タルモノナリコノ實ヲ蜜漬ニナシテ食ヘバ口中ヲ
 サワヤカニナス

Handwritten notes in Japanese, including the characters '阿蘭陀' (Aranda) and '大山' (Oyama).

大山

阿蘭陀人カナリ一國のビイキ程タカキ山ハ他ニコレナシ山ノ形ヲ鏡ヲ立タルガ如クニテ不二山ヨリ大キナリト云阿蘭陀デ如此ニ書ナリハニハ助語ナリ

ビイキ
Piek

ハン
van

Canarje.

ビイキハンカナリイキ
左行ニヨム

大正通曰瑠璃師古曰大秦出赤白黑黄青绿缥紺有十
種此自然之物今所用皆銷治石汁加衆葦灌而為之
コレニテミレバ今ノ瑠璃ハ皆贗物ナリ或ノ云ク阿
蘭陀ヨリ來ル日ヲ觀_ルゾニカラスと云ビイドロハ
假瑠璃ナルベシト此説ノ如クナラニカ

瑠璃

大正通曰瑠璃師古曰大秦出赤白黑黄青绿缥紺有十
種此自然之物今所用皆銷治石汁加衆葦灌而為之
コレニテミレバ今ノ瑠璃ハ皆贗物ナリ或ノ云ク阿
蘭陀ヨリ來ル日ヲ觀_ルゾニカラスと云ビイドロハ
假瑠璃ナルベシト此説ノ如クナラニカ

大山

五ノ事曰...
留

羅紗

東西洋考ニ瞿睿カ云ク兜羅綿ハ刀矢モ不能入ト刀
刀不能入トアレバ今ノ兜羅綿ヨリ厚シトニユ同書
ニ兜羅毛毳織成長者每疋至六七尺丈今人呼為哆囉
唵トアリテ兜羅綿羅紗ワカチカケレバ兜羅綿ハ
羅紗ノコト、ニユ元來西土ニテ羅紗ヲ兜羅綿ト譯
セシラ後アヤマリテ今ノ兜羅綿トナシタルトニヘ
タリ和蘭ニテハ羅紗
トラケント云

東面新嘉坡... 羅... 同書

ホウラツカ

阿蘭陀人持來蜜漬ノモウマラアカトホウラツカト
云ハ言アヤマリタルナリ或人文選六臣註吳都賦劉
良註引異物志曰餘甘如梅李核有刺初食味苦後口中
更甘高涼建安皆有之トコレモウマラアカナルベシ

阿蘭陀人林來密書
ホウミツ

阿蘭陀墨

阿蘭陀ノ墨ハ鐵漿ノ如シ
ノ方左ノ如シ
五倍子二百五十錢
程桃膠六十四錢
程膽礬六十四錢
程此三味細末酢百三十錢
水百目程交合右三味ノ細末ヲ浸シ日ニ干シ用ユ

阿蘭陀文字二十五字ノ内ノ
正計十二百五十九字ノ内ノ
阿蘭陀文字二十五字ノ内ノ
阿蘭陀文字二十五字ノ内ノ

阿蘭陀文字二十五字ノ内ノ
字十二ノ字ノアトヘツギテモ
九ノ字ハ九ノ字ナルヲ決セリ
時歐羅巴ノ文字ヲ習ヒ歸リテ
ノ文字ツギ様モ歐羅巴ノ法ニ
リサテ伊呂波ノ名ノ字ハ即チ
十リ

阿蘭陀文書二十五年九月八日森種崎ノ麓葛木濱ノ舟ニコレナク阿蘭陀船ナルベシ

黒船

土佐軍要記ニ慶長元年九月八日森種崎ノ麓葛木濱浦湊へ唐船夥シク來ルトアレ凡崑崙奴アレバ西土ノ舟ニコレナク阿蘭陀船ナルベシ

南表へ書掛深しく来りてし月日森野能く繁茂不窮
土田軍安詰ニ敷き其年十月八日森野能く繁茂不窮
黒冊

阿蘭陀尺

阿蘭陀ニテハ指ノ幅とドイムストツコト云テ尺法
コレヨリ起ルソレユヘニ尺ヲ足ル云トイヘリ家語
ニ孔子ノ云ク布手知尺布指知寸トアレバ西土ニ同
レコト、いヘタリ

阿蘭陀銀
寛文斗中ノ長崎ノ差出書ヲ觀ルニ阿蘭陀船銀ヲ載
來ルトアリ阿蘭陀ハ銀ノ價ト賤シケレバ我國ノ
銅ト交易ヲナシテ宜キユヘナルベシ或人ノ云ク今
モ阿蘭陀銀ヲ銅ト貿易ヲナシナバ我國ノ一益ナラ
ント

阿蘭陀銀

寛文斗中ノ長崎ノ差出書ヲ觀ルニ阿蘭陀船銀ヲ載
來ルトアリ阿蘭陀ハ銀ノ價ト賤シケレバ我國ノ
銅ト交易ヲナシテ宜キユヘナルベシ或人ノ云ク今
モ阿蘭陀銀ヲ銅ト貿易ヲナシナバ我國ノ一益ナラ
ント

阿蘭陀本
圖說アリ
及ヒ
心
書ナリ

西洋印書

阿蘭陀本草等ヲ觀ルニ甚ク精妙ニシテ萬國ニ勝レリ
西洋ノ印書ハ螺絲轉ト云器ヲ用ルコト遠西奇器
圖說ニ載タリ其文左ノ如シ

西洋印書亦用螺絲轉故其書濃淡淺深曲盡款畫之
致

サテ遠西奇器圖說ハ明ノ天啓ノ時ニ西海ノ鄧玉函
口授シテ関西ノ王徵譯繪スル書ニテ西洋ノ諸器ノ
圖說アリ及ヒ螺絲轉モ圖說アリ心書ナリ

西新野書
阿蘭陀本草書
西新野書
阿蘭陀本草書
西新野書
阿蘭陀本草書
西新野書
阿蘭陀本草書
西新野書
阿蘭陀本草書

散葉

王氏談錄曰肘後有二葉奩止葉末數品而已每視人病
旋取諸末合和加減為劑料日服不盡其數病未愈他日
再至曰葉服不如數耳トコレ阿蘭陀人ノ專ラ散葉ヲ
用ルト同ジ阿蘭=湯葉アレ散品字箋ニ云ク可用
之材質皆得称料布帛之可滿剪裁為作料辛辣之可入
蒸湯為椒料トアレバ劑料ハ一劑ノ葉料ト云コトナ
ルヘシ

再世曰葉那不吐禮再小三ノ阿蘭所入ノ事ヲ借葉ノ
 葉那給末合叶吐禮或濟排日願不盡其禮亦未與外日
 王力結就曰相對首二葉蓋土藥末禮品而日每賂人亦
 借葉

金錢

宋ノ蔡襄ノ萬安橋ノ碑ニ靡金錢一千四百万トアリ
 古ヨリ歷代金ハ散用ノモノニアラズ梁ノ始メ京師
 三吳荆郢江襄梁益ハ錢ヲ用ヒ其餘ノ州郡ハ穀帛ヲ
 雜ヘテ交易シ交廣ノ域ハ金銀ヲ貨トスレ此時南北ニ
 分レ交廣ノ域バカリ金銀ヲ貨トスレ凡金錢ニハアラズ
 隋書ニ云後周保定元年河西諸軍或用西域金銀之錢
 而不禁トコレモ一時ニ通用スルヲニテ定メタル通用
 ニアラズ銀ノ錢ヲ使フバ歐羅巴ノ地方ハ金宋史燕
 王德昭傳曰三歲作弱弓輕矢植金錢兩的俾之戲射皇
 明通紀曰景帝以銀豆金錢等物撒地令官人及官侍爭

證類本草曰含生草主婦人難產口中含之立愈亦咽其
 汁葉如卷柏而大生鞞鞞國其葉煮之不熱無毒小阿蘭
 陀持來り我國安產草ト云モノ即チ含生草ノ類ナリ
 阿蘭陀ニテハロスハニエルクク云
 七十八年前ニ阿
 蘭ヨリ來ル安產
 草ト云
 漢大ク其後中絶ニテ近年
 渡ル安產草ハ小キナリ

含生草

證類本草曰含生草主婦人難產口中含之立愈亦咽其
 汁葉如卷柏而大生鞞鞞國其葉煮之不熱無毒小阿蘭
 陀持來り我國安產草ト云モノ即チ含生草ノ類ナリ
 阿蘭陀ニテハロスハニエルクク云
 七十八年前ニ阿
 蘭ヨリ來ル安產
 草ト云
 漢大ク其後中絶ニテ近年
 渡ル安產草ハ小キナリ

Roos van
 hiencu

倭扇

蓬窓談録曰余至京有外國道人利馬實贈予倭扇四柄
 合之不能一指甚輕而有風又堅緻道人又出笛琴其制
 異于中國用銅鐵絲為絃不用指彈只以小板案其声更
 清越又有自鳴鐘僅如小香盒精金為之一日十二時凡
 十二次鳴亦異物也ト此倭扇ハ今ノ扇ヨリ骨至テウ
 スク地紙ハ西土ノ地紙ニ比ベテ堅緻トイヘバ今ノ
 地紙ト同ジカルベシ先年觀タル阿蘭陀のカラーヘ
 シン木匣ノ横へ小木ヲナラベ堅ニ鍮金ノ鍼金ヲ絃
 トシ指ヲ以テナラベタル小木ヲ推バ推タル木ノ先
 絃ヘアタリテ声シナス琴ヨリ大ク絃モ多ケレ

會生草

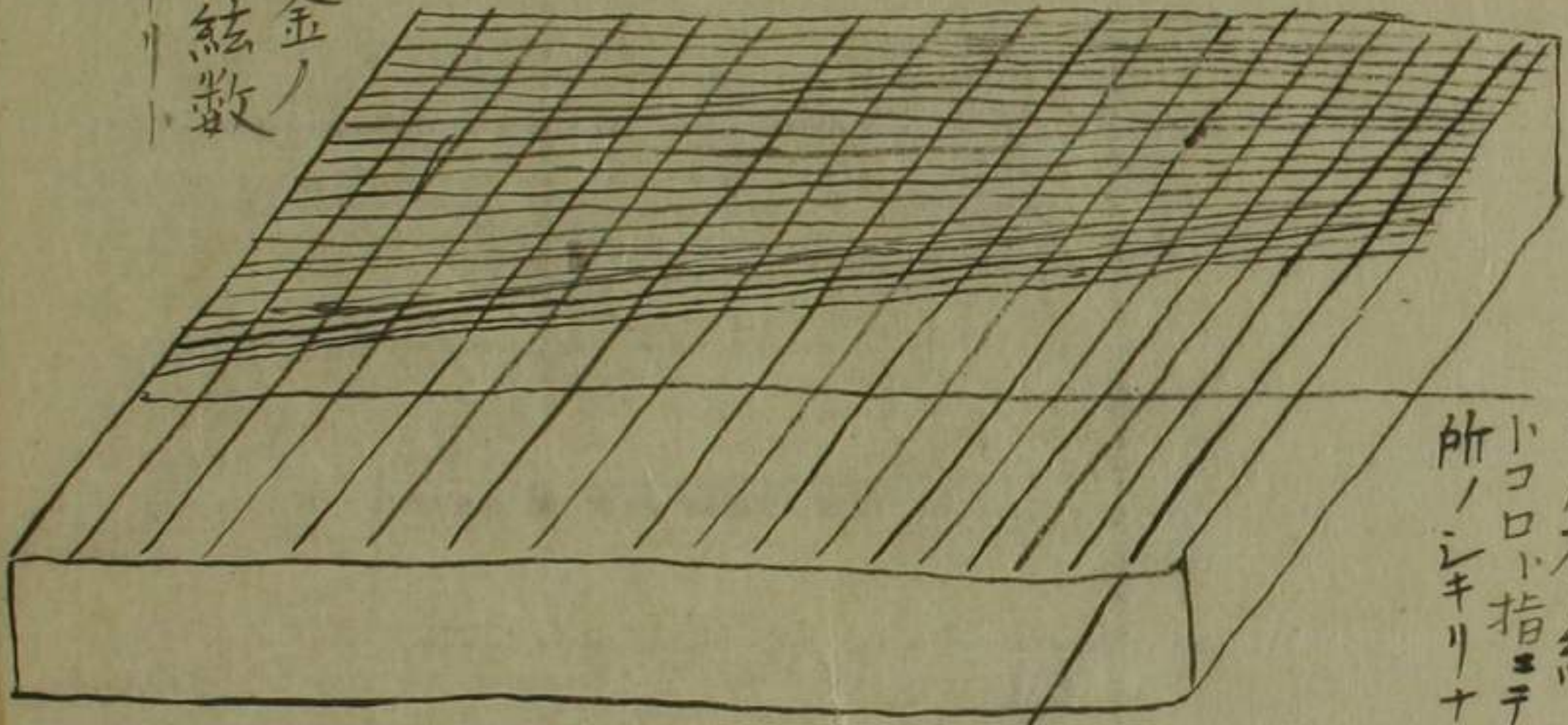
何謂の... 大... 會生草... 口... 會生草...

馮時可が觀タル笛琴カラヘシンの類ナルベシ
 サテ如小香盒トアルハ今香盒時計ト云モ本ヅリ所
 アリ

カラヘシ
Clarecin

カラヘシノ圖

コノ結鑰金ノ
 針金ニテ結數
 三十餘アリ
 覺ユ



コノ木ハ結ヲ張
 小コロ指ヲテラス
 所ノシキリナリ

コノ横ニナラベタル木ヲコノ
 指ニテラセバ木ノ先アカリ
 絃ニアタリ声ヲ出ス木數
 忘ル但木一本ツ、動リ

匣ノ大サ高サ忘レタレ
 大抵形ヲ如此但譜アリ

一角

阿蘭陀大譯今村源右衛門阿蘭陀ノ諸書ヲ考カヘテ
一角ノ説ヲ著シ一角獸ノ圖ヲノスリノ略ニ云ク

ハウルスヘ子トスル者ノ書ニ云ク韃靼ノガ

ム韃靼ニテ國王ノ一角獸ヲ畜フ又ラニフリーイの

都ニテ象ノ小キ程ナルヲミル形ノ頭ベ平ク野猪

ノ如ク舌尖リ釣鉞ノ如ク眼コハ犀ニ似たりパウ

ルスラーヒユスグ云ク一角獸ハ灰色小馬ノ如ク

頭ラニ髮多ク覆ヒ羊ジノ如キ鬚アリテ額ヒ長

サニコビト尺ニ寸餘程ノ一角アリ又ホノニイ

地ノのロウラウエイキテハルマー下ク云者ノ云

ク一角獣ニ足メツカトアラビヤ國ケルク阿蘭陀
家ヲケルノ傍ノ厩ニ繫ギアリシヲ見タリ大キ
ナルハ三十月ヲ經タル馬ノ如ク額ヒニ一角アリ
テ長サ三アイラハ曲尺六尺小キハ一年ヲ經タル駒
ノ如クニシテ一角ノ長サ手ノ四束バカリ阿蘭陀
尺ノ積リ阿蘭陀ハ手指コノ獸ノ黒色ニテ頭ラハ
ヲ以テ尺寸ノ名トス
廉ノ如ク頸短ク毛髮少ク鬣ニ短クカタカタヘタ
レ足ヤセテ牝廉ノ足ノ如シ蹄メノサキ少シワレ
テ羊ジノ如ク右ノ足ニ毛多シ
一角獣女兒ヲ好ミ香ヲ悦ブ
イツノ比ヨリカ獸ノ角ニアラズ北海ノ魚ノ一角

ナリトモ云ヘリ

コノ説モ一定ナラザレバ信ズベカラズ敦書アラハ
ス所ノ和蘭櫻木一角説ノ如ク山獸海獸知ルベカラ
ズトナスヨロシカルベシ

一角獸圖



按ズルニ此圖阿蘭陀本草阿蘭陀ニテ本草也
アレ山獸海獸知ベカラザレバ是亦信ズベカラズ

蠻酒

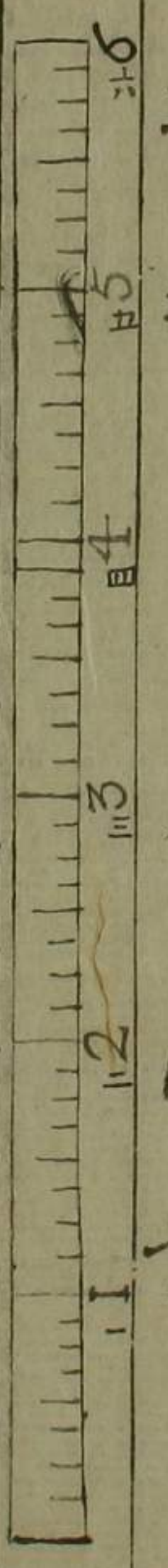
阿蘭陀人蠻國ノ酒ハ蒲萄ヲ以テ造ルト云イマノ蒲萄ニ
テハ酒ニ造ラルマシト甚々疑シケレト蒙泉雜言曰酉陽雜
組與六帖皆載葡萄由張蹇自大宛移植漢宮按本
草已具神農九種當塗煥火去蹇不遠而魏文之詔實
稱中國名果不言西來是唐以前無此論予嘗以為大
宛之種必與中國者異故博望取之段白所載必有所
據但失實耳比成酒泉屢嘗取乾之名曰瑣比中國
者差小形圓而色正赤其味甘美非中國者可敵則予
所見庶或得之今此種處有之獨蒲坂者勝土人乾

之以資貿易江南重之稱葡萄葡萄曰蕃云者豈承
 襲瑣々之軋歟姑識之以俟知者トコノ説ニテレバ
 葡萄ノ種多メケレバ酒ニ造ラル、蒲萄アルベシ

阿蘭陀尺圖
 寶曆三年高橋氏ニテ見タル阿蘭陀尺銀ニテ造リ三
 寸ヨリ折テ減ルヤウニナシタルナリ圖ノ如シ

阿蘭陀尺圖

寶曆三年高橋氏ニテ見タル阿蘭陀尺銀ニテ造リ三
 寸ヨリ折テ減ルヤウニナシタルナリ圖ノ如シ

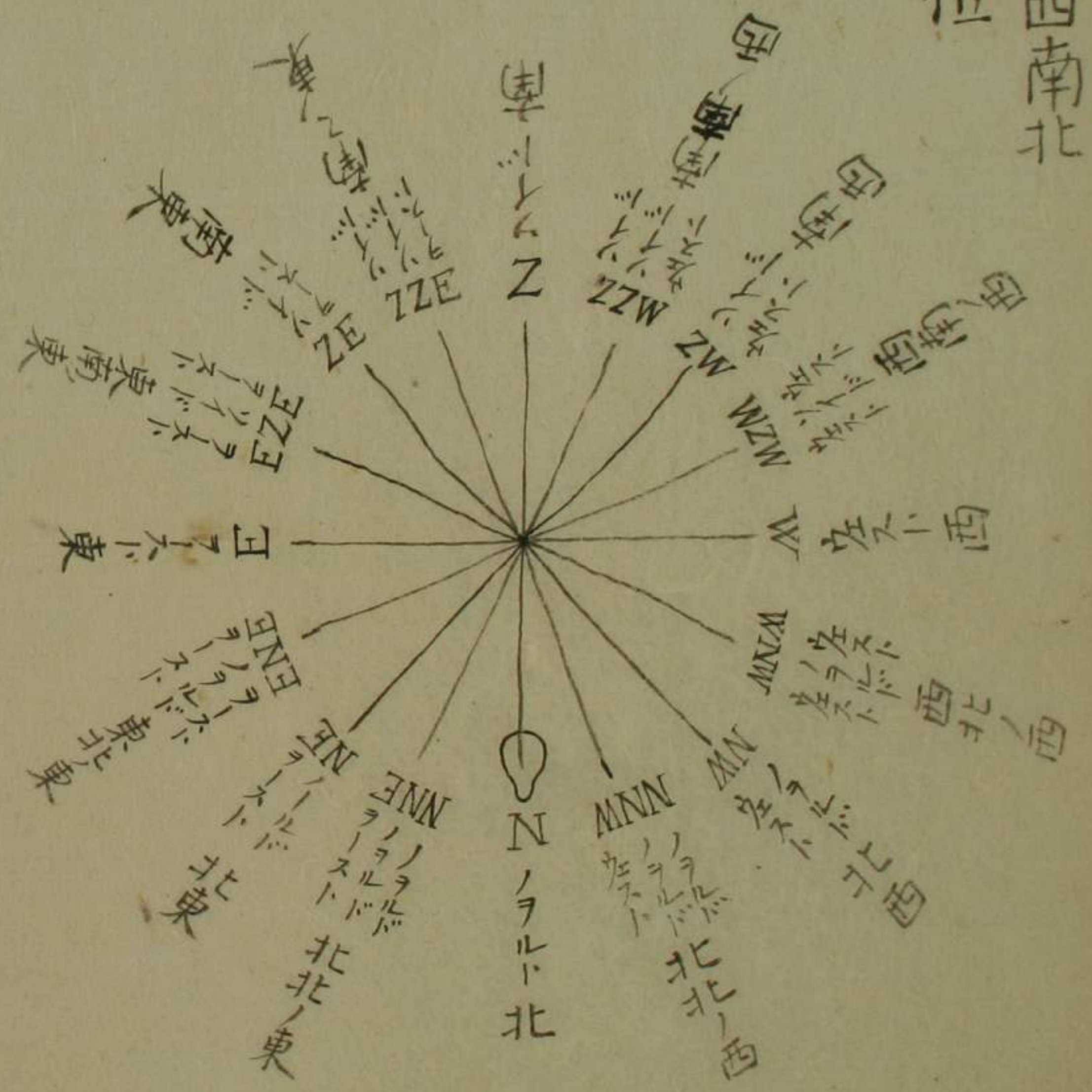


六段ノ長サ曲尺五寸一分弱

阿蘭陀ノ尺一箇壹尺二寸ニテ十二段ニナシ一尺ハ
 曲尺一尺二分弱ニアタル阿蘭陀ハ都テ十二トナス
 ヌヘナリコレハ阿蘭陀ノレイニラニツセ。ドイムストツコ
 と云尺ナリ

阿蘭陀東西南北

十六位



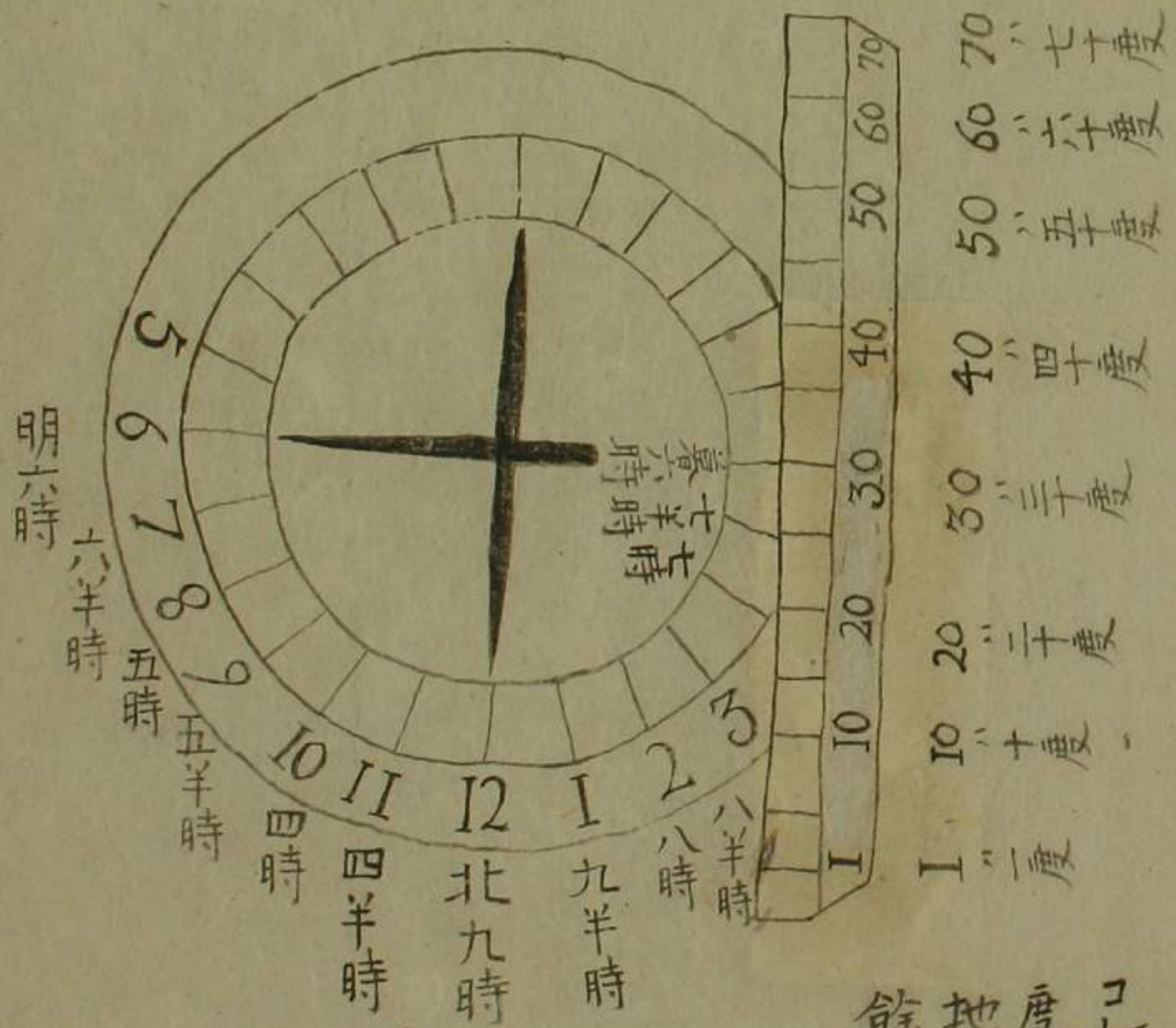
ソシ子ウエイヌルノ圖

磁石



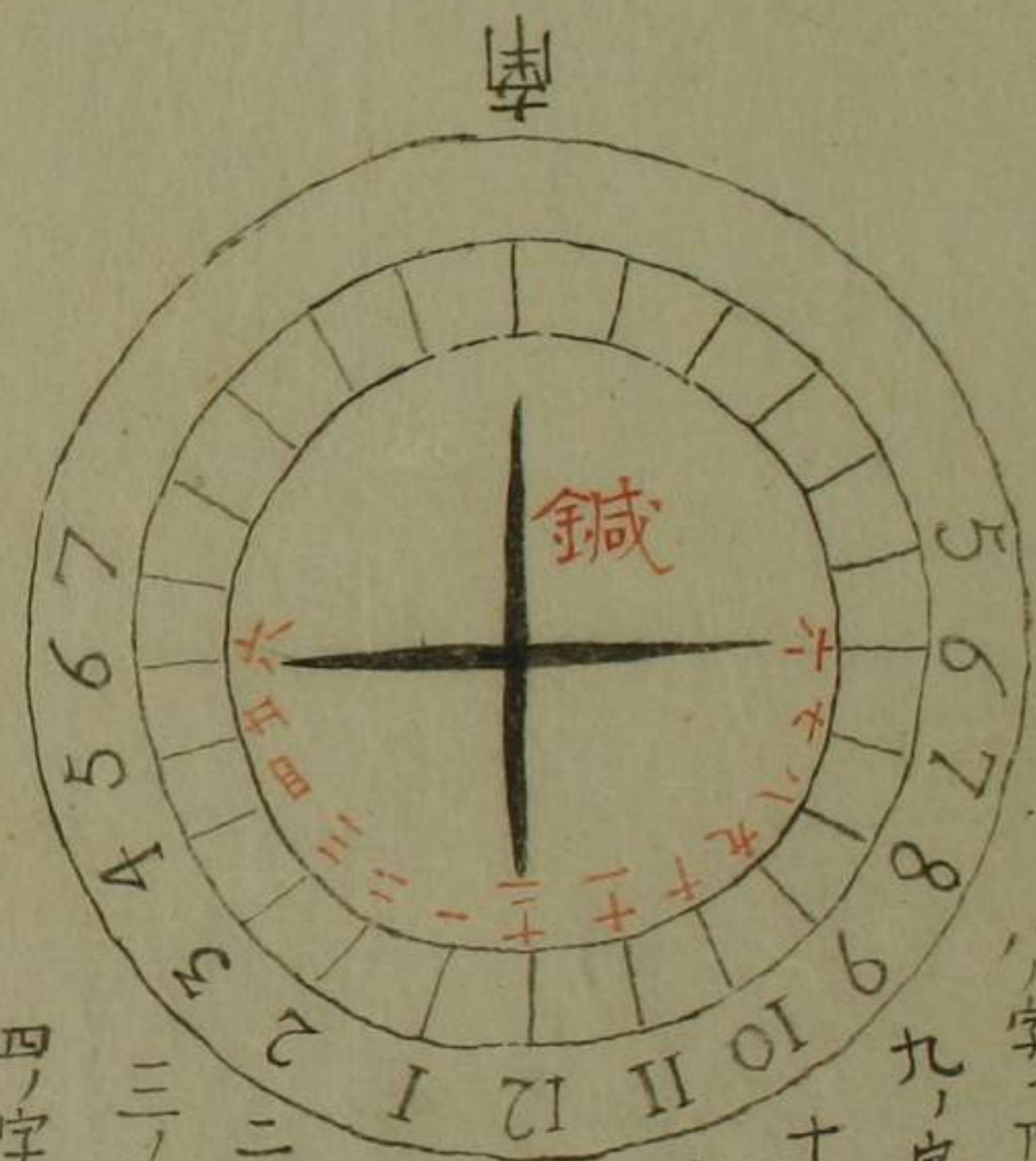
コレハ阿蘭陀ノ東西南北ノ十六位ヲ
略スル八位ナリ

其國ノ北極地ヲ出ル度数ノ文字エ金ノ一ヲアテ十



コレハ北極地ヲ出ル
度数ナリ一度ハ北極
地ヲ出ルコト一度ナリ
餘コレニ效フ

内ノ十文字ノ鍼ヲ立十二ノ字ヲ北ヘアテ鍼ノ景ノアタル
文字ニテ時ヲ知ナリ



六ノ字ヘアタレバ明六時
七ノ字ヘアタレバ六半
八ノ字ヘアタレバ五時
九ノ字ヘアタレバ五半
十ノ字ヘアタレバ四時
十一ノ字ヘアタレバ四半
十二ノ字ヘアタレバ四時
一ノ字ヘアタレバ九半
二ノ字ヘアタレバ八時
三ノ字ヘアタレバ八半
四ノ字ヘアタレバ七時
五ノ字ヘアタレバ七半
六ノ字ヘアタレバ六時

九疑零款
下同

文字ノ鍼ヲ立テ鍼アタル文字ニテ時ヲ知タトヘバ
北極地ヲ出ルコト三十度ノ國ナレバ30ノ字ヘアツ
ルナリ餘コレニ效フ阿蘭陀ハ1ノ字九ヲ付レバ十
ニ成2ノ字九ヲ付レハ二十ニナル餘コレニ效フ北
地ヲ出ル度ヲ記ス金ノ下ニ當ルナリ如此
ノ金アリ此金ヲ其ノ國ノ度ヘ當ルナリ

